

青柳 精一 著

近代医療のあけぼの

—幕末・明治の医事制度—

▶ A5判・576頁／定価 4,935円(税5%込) ISBN978-4-7842-1583-6

2011年6月刊行

日本の医界は近代における大事件をいかに乗り越え、発展してきたのか——。
遣外使節団の病院視察から、ドイツ医学の導入および医学校の創設、看護師・女医の誕生、医師法の制定と、よりよい医療を求めた先達のあゆみをたどる。
長年医療ジャーナリズムに従事してきた著者が、幕末・明治の医事制度と社会背景について膨大な史料をもとに考証する。

◆◆内容目次◆◆

第一章 序 論

- 第1節 幕末期の蘭医学の興隆と高階安芸守の建白
- 第2節 ペリーの来航と堀田正睦の開国論
- 第3節 各国との修好通商条約の締結と遣米・欧使節団
- 第4節 松木弘安、福沢諭吉らの「夷情探索」
——医療施設について——
- 第5節 幕末海外に渡航した医師たち
- 第6節 蘭語に代わる英仏露語の台頭と各種辞典の出版

第二章 明治新政府の発足とその医事政策

- 第1節 あたらしい政治体制の確立
- 第2節 明治初期の医界の動きと二つの医学校
- 第3節 ドイツ医学の導入
- 第4節 お雇い外国人医師の来日
- 第5節 海外留学生制度で渡航した留学生
- 第6節 「医制」の制定と長与専斎
- 第7節 明治初期の開業医師と医学校（塾）
- 第8節 各種医師団体（結社）の誕生あいつぐ
- 第9節 医術開業試験と漢洋医学闘争
- 第10節 病院の拡充と入院料金
- 第11節 女医の登場とその活躍
- 第12節 東京医学校から東大医学部へ

第三章 明治中期の医事問題

- 第1節 東京大学医学部の発足と邦人教授の誕生
- 第2節 医学教育制度の推移と“医籍”の登録
- 第3節 二つの医学校
——済生学舎と成医会講習所の明暗——
- 第4節 コレラの流行と国内の防疫体制の整備
- 第5節 衛生行政組織の整備にともなう医会の結成
- 第6節 薬律の制定と医薬分業の抗争
- 第7節 開業医制の定着と医療費の動き
- 第8節 近代的な看護婦の養成はじまる
- 第9節 軍隊と脚気——兵食論争について——
- 第10節 国家医学会と国家医学講習科

第四章 明治後期の医事問題

- 第1節 日本医学会と日本聯合医学会
- 第2節 医師法制定までの長い道程
- 第3節 医師法制定後の医界事情

あとがき／引用・参考文献一覧

あおやぎ・せいいち…1924年福岡県北九州市生まれ。1945年横浜高専（現横浜国大）卒業。1952年朝日新聞関西本社に入社後、校閲部を経て東京本社科学部・大阪本社社会部・東京本社『科学朝日』編集部などに勤務。退職後も『日本医師会雑誌』に「日本医師小史」を、大阪保険医協会機関誌に「医界雑録」をそれぞれ連載。著書に、『診療報酬の歴史』（思文閣出版、1996年）。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 【2011年6月27日より左記に移転】 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	近代医療のあけぼの	本体4,700円(税別)	ISBN978-4-7842-1583-6	
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい） <input type="checkbox"/> 代 引（書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい）				書店番線印

京都療病院お雇い医師ショイベ

森本武利編著／酒井謙一訳

滞日書簡から

明治5年に京都療病院へ招かれたドイツ医師ハインリッヒ・ポルト・ショイベが滞日中に母へ送った書簡のコピーを、ショイベの遺族から得た編著者がその翻訳を通して、ショイベの生涯をはじめ、ほかのお雇い外国人達との交流や居留地での生活から明治初期の京都の風俗にいたるまでを、生き生きとよみがえらせる。

▶A5判・346頁／定価 7,350円

ISBN978-4-7842-1581-2

※診療報酬の歴史

青柳精一著

医療する側と患者の社会的な接点ともいえる診療報酬の実態はなかなかつかみ難い。医療ジャーナリズム界で活躍してきた著者が、診療報酬と社会背景に関して膨大な史料をもとに歴史的な考証を加え、古代から明治期にいたる歩みを外国にも視野を広げて跡づけた大著。

▶A5判・630頁／定価 15,120円

ISBN4-7842-0896-8

医療福祉の祖 長与専斎

外山幹夫著

長与専斎は江戸時代を通じて長崎・大坂で学び、長崎医学校(長崎大学医学部の前身)の初代校長となった人物。日本近代の医療・衛生・福祉の確立者ともいべき長与の生涯に焦点をあて、明治新政府の政策のなかで近代医療福祉制度がどのように整備されていったのか、専斎の果たした功績に即して紹介した医療の世界における“明治維新”。

▶A5判・200頁／定価 2,100円

ISBN4-7842-1107-1

東大医学部初代総理池田謙斎〔全2冊〕

池田文書研究会編

池田文書の研究

池田謙斎宛の約4,000通の文書類を翻刻。内容は、東大医学部の前身である幕府医学所関係文書およびその関係者からの書簡、ならびに池田謙斎宛の書簡などである。本書は、東京大学中樞部・陸軍軍医部・宮内省侍医として関係のあった各官家、同僚侍医、また患者としての華族や高級官僚などによる謙斎宛書簡を上・下2分冊で収録。

▶A5判・総764頁／揃定価 15,330円

脚気の歴史 ビタミンの発見

山下政三著

ビタミン発見の背景には、脚気との闘いの歴史や、日本の漢方脚気医学の陰の貢献があり、エイクマン以後、鈴木梅太郎のオリザニン、フンクのビタミンなど、さまざまなビタミン発見の伝説も語られる。本書は、ビタミンB1欠乏症の専門家が、脚気の歴史をもとに全く新しい視点からビタミン発見の真相解明に迫る20世紀医療文化史。

▶A5判・540頁／定価 14,700円

ISBN4-7842-0881-X

日露戦争従軍記 軍医の陣中日記

溝上國義編

医家に遺された100年前の軍医のノート。明治37(1904)年から翌年までの陣中日誌には、軍医から見た日露戦争の状況が克明に記されている。水・食料の確保と衛生面に追われ、転戦する野戦病院では外科治療以上に、疾病、特に脚気・赤痢対策に時間が割かれていたことなど、戦時下の様子が多くのスケッチとともに生々しく活写されている。

▶A5判・172頁／定価 2,940円

ISBN4-7842-1211-6

近代医史学論考 阿知波五郎論文集 上

阿知波五郎著

戦後欧米の医史学研究の動向に触発され、比較医史学の視点からヨーロッパ医学受容の歴史を自らのテーマとし、初めてヨーロッパ医学の影響を実証的に体系化した氏の論稿のうち、新生日本医史学の息吹が感じとられる記念すべき「近代日本外科学の成立」と明治初期医学関係論文14篇を収める。

▶A5判・420頁／定価 6,300円

ISBN4-7842-0448-2

近代日本と地域振興 京都府の近代

高久嶺之介著

近代日本の地域社会の姿を、京都府下における、明治前期の京都官津間車道の開鑿・明治前期～中期にかけての琵琶湖疏水と鴨川運河の開鑿・明治初期～昭和の敗戦直後までの天橋立の保存とその振興・明治初期～昭和の敗戦直後にかけての童仙房村の開拓、という特定のテーマを取り上げ、地域振興の視点から考察する。

▶A5判・364頁／定価 6,825円

ISBN978-4-7842-1570-6

緒方惟準伝 緒方家の人々とその周辺

中山沃著

【7月刊行予定】

洪庵の嫡子で、ボンペ、ボードインらに学んだ惟準は、宮廷医療への西洋医学導入、大阪大学医学部・軍医学校の前身創設、大阪での医療基盤確立などに貢献。その自叙伝「緒方惟準先生一夕話」を軸として、著者が博搜した資料とともにその生涯と交遊を詳述。幕末・明治初期の医学界をものがたる基本図書。

▶A5判・1008頁／定価 15,750円

ISBN978-4-7842-1563-8

現代医療の原点を探る

前田久美江著

百年前の雑誌「医談」から

明治26年創刊、同41年に廃刊された私立奨進医学会の機関紙「医談」は、近代医療制度が確立していく過程における医学界を垣間見る貴重な史料であるが、その記事から、江戸から明治にかけての時代に、日本の医療事情や教育環境がどんな状況であったか、その中において医師がどう行動し、何を考えていたかを浮かび上がらせる。

▶A5判・312頁／定価 2,625円

ISBN4-7842-1193-4

※ベルツの生涯 近代医学導入の父

安井広著

日本の近代医学発展の基礎を築いた一人であるベルツの生涯をその業績と足跡からたどる著者ライフワークの遺著。

【内容】明治初期の東京医学校／来日以前の経歴と日本における生活／内科学著書から／栄養論／温泉医学／中央衛生会／ドイツ東洋文化研究協会／人類学／在日中の日記／ドイツにおける晩年の日記

▶A5判・450頁／定価 12,600円

ISBN4-7842-0876-3

小児科学の史的変遷

深瀬泰巨著

昭和36(1961)年より小児科開業医として永く地域医療に携わってきた著者が、内外の医学書原著をひもとく、小児科学の誕生や発展の跡をたどった論考集。とりわけ小児感染症の歴史的変遷を通観し、近年大学生の間で再流行した麻疹など、忘れ去られつつある感染症を考究する。

▶A5判・604頁／定価 9,450円

ISBN978-4-7842-1526-3

※日本梅毒史の研究 医療・社会・国家

福田真人・鈴木則子編

ベニシリンの出現で「過去の病」のイメージすらある梅毒だが一。いまなぜ梅毒か。日本人は自らの身体や性、性感染症とどう対峙してきたのか。「家」・共同体・国家、さらに国際社会がどのような形でそれに介入し、その態度を変容させてきたのか。これらのテーマをめぐって専門領域を異にする研究者による共同研究の成果9篇を収める。

▶A5判・392頁／定価 7,350円

ISBN4-7842-1247-7

明治の避病院 駒込病院医局日誌抄

磯貝元編

当時わが国の代表的な伝染病院であった駒込病院の勤務医が当直時に書き記した医局日誌全十一帖(明治32年～42年)から編者(元駒込病院副院長)による脚注を付して翻刻抄録。連日の如く運び込まれるベスト・腸チフス・赤痢患者の状況、医師や看護婦の取り組み、医局内の行事や人事など伝染病をとりまく生々しい実態が活写されている。

▶A5判・530頁／定価 13,650円

ISBN4-7842-0998-0

医史学点描 阿知波五郎論文集 下

阿知波五郎著

「世界医学教育史」を祈念しつつ逝った著者の論稿から医学教育史関係15篇、京都・外科関係人物誌17篇、医学随想28篇を収めた。推理小説をも物したその筆のさえずり、海外の医史学書を精力的に獵歩した視野の広さ、さらに相次いで肉親の死を体験した氏のヒューマンで真摯なまなざしがうかがえる珠玉の論集。

▶A5判・420頁／定価 7,350円

ISBN4-7842-0449-0

鉄道日本文化史考

宇田正著

日本の近代化のなかで陸蒸気＝鉄道がもたらしたものは、はかり知れない。本書では「文化の鏡」としての鉄道をとりあげ、知識人の体験や一般人の認識から民俗・観光(巡礼)・教育との関わりを通して、鉄道が日本人の内的形成に果たした文化的役割を明らかにする。

▶A5判・352頁／定価 5,775円

ISBN978-4-7842-1336-8

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。